

弥生の出雲王に出会える

季刊

第57号

(2025年4月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

無料
博物館探検隊

① 11時～11時30分
② 12時～12時30分



◇三谷神社獅子舞保存会
子ども獅子舞 13時～13時30分



出雲商業高校書道パフォーマンス 9時30分～10時

◇オープニングイベント
4月29日(火・祝)

◆メインイベント

開館15周年
出雲弥生の森まつり2025

有料
古代体験フェスティバル

10時～15時

ミニ丁銀づくり

古代出雲歴史博物館

銅剣・銅鐸プラ板づくり

荒神谷博物館

古代瓦文様のうちわを作ろう

八雲立つ風土記の丘

勾玉消しゴムづくり

出雲弥生の森博物館

無料
展示ガイドサービス

常設展館長ガイド

10時05分～11時05分

●ギャラリー展

14時～14時30分

●速報展

14時30分～15時

有料
屋台村・喫茶コーナー

10時～15時

無料
西谷墳墓群ガイドサービス

10時～15時

おまつり当日は
「よすみちゃん」
も登場するよ!



◆ゴールデンウィーク

5月3日(土・祝)

無料
火起こし体験

10時～12時



5月4日(日・祝)

無料
よすみちゃんクイズ

10時～11時

5月5日(月・祝)、6日(火・休)

無料
折り紙教室

9時30分～11時30分

5月3日(土・祝)～5日(月・祝)

無料
キャラ探しスーパ

5月6日(火・休)

無料
勾玉・缶バッジづくり

日程は変更になる場合がある
よ!最新の情報は博物館ホ
ムページを確認してね!



★ギャラリー展

旧大社駅 写真展

「文化財修理の現場」

3月8日(主)～6月30日(月)

重要文化財「旧大社駅本屋^{ほんや}」は、かつて国鉄大社線の終着駅として、出雲大社への多くの参拝客を迎え入れました。美しい木造建築の駅舎は全国でも珍しく、純和風デザインされた荘厳な姿を今に伝えています。



保存修理の現場の様子

現存する駅舎は、1924(大正13)年に建設された2代目の駅舎であり、2004(平成16)年には重要文化財に指定され、2024(令和6)年2月に建設から100年を迎えました。現在、

国の重要文化財の駅舎は、旧大社駅本屋、東京駅丸の内本屋(東京都)、門司港駅本屋(福岡県)の3棟のみです。

一方で、建築後100年が経過し、腐食や破損が進んでおり、2020(令和2)年度から約5年をかけて、保存修理工事を行っています。

今回は、2025(令和7)年12月の工事完了を前に、旧大社駅本屋を守り受け継ぐ修理現場の様子を紹介する写真展を開催します。また写真の内容に関連して、瓦や鴟尾^{しび}、板材も合わせて展示します。この機会に、写真の力を通して、文化財修理の臨場感を感じていただければ幸いです。(吾郷 誠)



復原作成した新しい鴟尾

★旧海軍大社基地の情報求む

皆さん、お願いです。基地の施設の所在や基地の建設について見聞きした話など、ご存じのことを教えてください。

出雲市文化財課は、大社基地を主な対象として、総合調査を実施しています。主な調査項目は三つ、「遺構調査」「聞き取り調査」「物品調査」です。

いずれも、皆さんからうかがうお話が調査の出発点となります。

「○○に防空壕がある」「××に兵舎があった」「☆☆の構造は…」「当時、□□をみた」「△△という話を聞いている」「うちに兵隊さんが泊まっていた」「海軍が使っていた◇◇を持っている」「戦時中の生活は◎◎だった」etc…。

皆さん大したことは知らないが…と前置きされますが、お話をうかがうと、今では知ることができない事実がごろごろと。

今年は戦後八十年。戦時を知る人も減り、多くの記憶が失われつつあります。

戦争の記憶を後世に伝えるため、ご協力をお願いします。

連絡先(0853)2116618

(黒田 祐介)

★ものづくり体験について

当館では、3種類のものづくりを体験することができます。

「古代鏡づくり」および5人以上の団体での体験を希望される場合は、原則2週間前までにお申し込みください。「缶バッジづくり」「勾玉づくり」は、少人数であれば予約なしで体験いただけます。皆さまのお申し込みをお待ちしています！

◆古代鏡づくり

合金を溶かして型に流し込み、表面を磨いて小さな鏡を作ります。
◆所要時間60分、参加料金550円
※古代鏡作りの当日予約は受付いていません

◆勾玉づくり

滑石という石を削って、当館で展示している勾玉と同じ形の勾玉を作ります。

◆所要時間60分、参加料金350円

◆缶バッジづくり

オリジナルの缶バッジを作ることができます。

◆所要時間15分、参加料金50円

(缶バッジ3個分)

★施設のご使用について

出雲弥生の森博物館では、たいけん学習室や実習室をご使用いただけます。

このたび、「出雲市公共施設予約システム」に当館施設の空き状況を公開しました。予約状況がインターネットで見られるようになりましたのでぜひ活用ください。予約は電話・メール・FAXで受け付けています。詳細は当館ホームページをご覧ください。

区 分		使用料
実習室（約 40㎡、調理実習設備あり）		5 0 0 円
たいけん学習室（約 180㎡）	全面使用	2, 5 4 0 円
たいけん学習室（約 90㎡）	半面使用	1, 2 7 0 円

※表中の使用料は1時間あたりの価格です。

※冷暖房を使用される場合は使用料の3割相当額を使用料に加算します。営利目的の利用は、使用料を10割加算します。

※歴史学習を行われる場合などについては、使用料の減免もありますのでご相談ください。

★博物館ボランティア募集中

出雲弥生の森博物館では、常設展示室の案内や、勾玉づくりなどの体験教室をお手伝いいただけるボランティアスタッフを募集しています。

ぜひ一緒に博物館でボランティア活動をしてみませんか。

●募集対象

年齢・性別・経験等不問

●活動頻度

月1、2回 各回2、3時間

※ご都合のつく範囲で

●活動内容

- ・博物館常設展示室の案内
- ・体験メニュー（勾玉づくり、缶バッジづくり等）指導
- ・イベント（各種講座、出雲弥生の森まつり等）の補助
- ・月1回のボランティア定例会（打合せ、企画展解説等）など

★文書の森をゆく②
漂着船の知らせ

今回は出雲市が所蔵する古文書の中から一つご紹介します。

ある年の6月24日、口田儀（現多伎町）の人へ届けられた急ぎの手紙にはこんな内容が書かれていました。「昨日、当方へ届いた手紙によると、『：同七時半時（午後5時頃）に飛脚がやってきて、杵築に長崎からの船一艘が漂着し、十人ばかりが乗っていた。彼らは出雲大社への参詣を希望したのでお奉行様に連絡するなどの対応がなされた：その後彼らは米を売ってもらい出発した』という話を聞いた」。

この手紙には年号等の記載がなく、詳細な年は不明ですが、受け取った人の活動した時期から、江戸時代末頃と推測できました。文中に「昨日：同七時半時」とあることから、先方に飛脚が来た翌日には田儀へ手紙が届けられており、急いで手紙を送ったであろう様子がうかがえます。

通常であれば、船が港に入る際には現地の船問屋等が船の身元確認や入港料の徴収することが決まりで、初めて来た船であっても同

様でした。ただし船が難破・漂着した時は違っており、船員の救助と海に流された荷物の引き上げ、船員の身元確認や聞き取り調査、港の関係者への対応などが行われました。文中でも郡奉行や関係各所へ急いで知らせたとの記述があり、非常事態であったと分かります。

この手紙を受け取った人は口田儀でたたら製鉄を営んでいた田儀櫻井家の関係者で、鉄の販売にかかる金銭の差配や、鉄の輸送に使う廻船について情報収集をしていました。船に関わる仕事をしている以上、海難事故は他人事ではなかったでしょう。いざという時の対応のために情報収集をしていた、こうした手紙が遺されたのかもしれません。

一枚の古文書から、当時の港の人々の様子や、対応する役所の動き、そして事件現場から離れた場所の船に関わる人々にも情報が伝わっていたことなど、様々な情報を読み取ることができる、非常に興味深い一通です。

（荒川 英里）

★展示のご案内

▼ギャラリートーク

開催中〜6月30日(月)

旧大社駅 写真展

「文化財修理の現場」

●ギャラリートーク

4月13日(日)、5月18日(日)、

6月8日(日)

※いずれも10時〜

参加無料・申込不要

▼速報展

開催中〜5月26日(月)

「大きな溝跡みつかりました

〜高西遺跡の3次発掘調査〜

★講座・講演会のご案内

▼職員リレー講座

①6月28日(土) 14時〜16時

「受け継がれる本殿〜須佐神社

本殿保存修理事業を中心に〜」

●講師 吾郷 誠

赤木 薫

(文化財保護係)

②7月12日(土) 14時〜16時

「旧海軍大社基地の

設営記録を読む」

●講師 黒田 祐介

(博物館学芸係)

③7月19日(土) 14時〜16時

「旧海軍大社基地の

調査と平和学習」

●講師 三原 一将

(文化財課 主査)



昨年度の職員リレー講座の様子

講座・講演会の申込について

定員80名

事前申込必須(電話・メール・FAX)

各回3000円

●申込受付時間 9〜17時

●予約時の必須事項 氏名・電話番号

★イベントのご案内

▼出雲弥生の森まつり2025

4月29日(火・祝)

5月3日(土・祝)〜6日(火・休)



★館長古来夢

年の初めに、日本遺産『伊丹諸白』と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷を訪ねた。「下り酒」とは江戸売りの清酒のこと。この日、足を運んだのは西宮市の辰馬悦蔵商店。「白鷹」の醸造元だ。附属の白鷹緑水苑には、日本遺産の構成要素がいくつも展示してある。

じつは、若いころにこの酒蔵へ来たことがある。大学の考古学教室では毎冬に「酒蔵見学会」として灘を訪れていた。日本の伝統産業についての理解を深めるという趣旨だった。もちろんそれは建前で、しほりたてのお酒をいただくことに眼目があるのは言わずもがな。酒蔵入口の一室で、杜氏さんが焙ってくれた酒粕を肴に口にした日本酒の味は、いまでも忘れられない。ただ、しこたま酔う。残念なこと、当時の酒蔵は阪神大震災で壊れてしまい、いまはない。さて、「白鷹」の三代悦蔵氏は大学で考古学を専攻したことからも、当主をしつつ考古資料、なかでも銅鐸の収集保存に尽力された。それが、辰馬考古資料館の収蔵品だ。銅鐸研究に欠かせない優

品が揃う。

帰り際、白鷹緑水苑の売店をそぞろ歩きしていると、ふと壁の看板に目が留まった。ナント、もとは松江市の酒屋にあったものではないか！白濁本町にあった「秦政義商店」と判明。これは、さらに探索しなければ。

(花谷 浩)



(発行) 出雲弥生の森博物館

2025年4月

〒693-0011

島根県出雲市大津町2760

(TEL) 0853-25-1841

(FAX) 0853-21-6617

(E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp

https://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料/無料

●開館時間/9:00〜17:00

(入館は16:30まで)

●休館日/火曜日

(祝日の場合は翌平日)

年末年始

